

心の原風景 —我が母校—

佐渡市立河崎小学校

明治35年の河崎村立久知尋常小学校創立から、今年で111年目を迎えています。児童数62人、学級数は7学級。教育目標「豊かな心をもち、学び続けるたくましい子ども」の具現化に向け、地域力を得ながら教育活動を進めています。

毎週、月、水、金は、「あいさつ隊」から学校の一日が始まります。行き交う地域の人や車に「おはようございます」と大きな声を響かせる子どもたち。慌ただしい通勤時にもかかわらず、減速して、笑顔で手を挙げ応えてくださるドライバーの皆さん。地域の温もりを感じます。

子どもたちは校舎内に入ると、どの子も、あいさつをしに教室室に向かいます。担任、級外の区別なく、全職員が子どもたちのあいさつで元気づけられているのです。

学区は、ホタルが生息する



あいさつ隊

久知川、県無形文化財の花笠踊り、揚浜式塩田製法による塩づくりなど、自然、文化、歴史の豊かな地域です。

河崎小の「佐渡学」は、この恵まれた環境の中で行われています。

3年生は、鬼太鼓や刀刀(とうとう)、花笠踊りなどの伝統文化に込められた人々の願いを学んでいます。

4年生は、久知川の水質やホタルの生育調査等を通して環境保全意識を高めています。5年生は、揚浜式塩田製法の塩づくりに挑戦し、この地区で栄えた産業の歴史を体感しています。6年生は、トキとのかかわりや生物多様性の視点で佐渡のよさを学んでいます。全校で取り組む佐渡おけさでは、地域の方による踊り指導と運動会の生演奏で「本物」に触れることができます。

低学年の野菜作りや地域探検など、日々の活動にも、地域の協力が支えられています。また、環境整備面で、PTAや、「河崎小を愛する会」を母体とする「ポプラ会」の協力があります。子どもたちの学びを支える随所で、地域の温もりあるかわりが生きている学校です。



塩作り体験

◆教育委員会学校教育課

(両津支所内) ☎23-4898



佐渡ジオパーク

ジオパーク、推進日記

30

祝！日本ジオパーク認定

9月24日(火)、日本ジオパークへの加盟が認められました。引き続き推進活動へのご協力をお願いいたします。

佐渡島ぐるっと一周2億年

佐渡島をぐるっと一周すると、2億年の旅をすることができるのをご存じですか？

9月に開催された佐渡国際トライアスロン大会Aタイプのバイクコースは、島をぐるっと一周するコースです。そこで、バイクコースの給水所に岩石の年代や解説を加え、トライアスロンとジオパークのコラボレーションを図ってみました。

岩石や地層がつけられた年代が違っていると、見える景色に变化があります。佐渡で大きく違いがわかる海岸線沿いの「色」に注目してみましょう。

白い砂浜の佐和田海岸から北上し、七浦海岸のあたりに来ると鮮やかな緑色に変化します。ところによりピンク色も見られます。さらに北上すると、大野亀や二ツ亀のような黒っぽい色に変わります。両津市街地を抜けて小佐渡に入ると礫浜(れきはま)が広がり、いろんな色が見られてとてもカラフルです。そして、小木半島では墨を塗ったように

真っ黒な石が広がります。

佐和田の砂浜は、時代としては比較的新しく川が運んできた砂



選手に景色を楽しんでもらうために作成したマップ

や泥がたまったものです。それに対して、相川や二見で見られる緑色の石は、約2千万年前の重大事件が関係しています。その事件とは、大陸が割れて日本海が誕生したことです。その際、マグマで温められた熱い水が岩石にしみ込み、鉱物を変化してあのような緑色の石になったとされています。小木半島の真っ黒な石は約1千4百万年前の海底火山から流れ出た溶岩が固まったものです。

佐渡島には、こんなにも違う種類の海岸線が広がっています。皆さんにとって、見慣れた海岸ですが、色の違いによって年代や岩の向きなどがわかります。佐渡は、地球から見たら小さな一つの島かもしれないですが、波乱万丈の人生(島生?)を送ってきた島なのです。

◆教育委員会社会教育課ジオパーク

推進室 (両津郷土博物館内) ☎23-2101